

/ml の比較的高い範囲内に感受性が分布していた。

病巣分離の *P. aeruginosa* に対して CPZ, CFS, LMOX, CZX, CMX は、0.78~ $\geq 100$   $\mu\text{g/ml}$  の範囲内に感受性分布がみられ、とくに CPZ, CFS は 3.13~6.25  $\mu\text{g/ml}$  に MIC のピークが認められた。

### 考 察

現在、Cephem 系抗生物質の開発は、急速な進歩発展してきたが、とりわけ抗菌スペクトラムの拡大、抗菌力の増強の面に著しい向上がみられる。Coagulase 陽性ブドウ球菌には、耐性ブドウ球菌用の Is-oxazolyl 系と同様に CEZ, CEPR, CET, CER, CTZ, CEC, CTM, CPZ, CZX, CMX などに優れた耐性株も少なく抗菌力が期待されるようである。病巣分離の *P. mirabilis* には、最近開発された CTM, CPZ, LMOX, CZX, CMX などが抗菌力が強く、とくに CZX, CMX の感受性が優れていたことが特徴的といえる。病巣分離の *E. coli* には、CTM,

CPZ, LMOX, CZX, CMX などの抗菌力が他の Cephem 系を含めた既知抗生物質に比べて数段階優れていたことがきわめて注目に値する。

病巣分離の *K. pneumoniae* には、とくに CTM, CPZ, LMOX, CZX, CMX などが他の Cephem 系を含めた既知抗生物質より数段階抗菌力が優れていたことは高く評価されよう。

病巣分離の *P. aeruginosa* には、CPZ, CFS, LMOX, CZX, CMX などが抗菌力を有していた。とくに、CPZ, CFS は、従来の CBPC, [SBPC, PIPC, APPC などの抗緑膿菌性 PC 系抗生物質より抗菌力が優り、Aminoglycoside 系抗生物質に匹敵する感受性を有していたことは Cephem 系抗生物質としては画期的といえる。

今後、Cephem 系抗生物質は、かかる病原菌による感染症に臨床応用した場合、かなり高い抗菌治療効果が期待しえるものと思われる。

## セフメタゾンの血中濃度とグラム陽性菌感染症への使用経験

市川 朝也・佐藤 喜一・山下 公一  
 斉藤 武久・宮崎 巨・坪川 俊二  
 大沼 秀行・植田 俊郎\*

セフメタゾン (CMZ) はグラム陰性菌に抗菌力を有し、かなりの臨床成績が報告されているが、耳鼻科領域ではグラム陰性菌感染症は必ずしも多くない、われわれは無作為に選んだ急性感染症 (扁桃炎・中耳炎・外耳炎) 9 例に起炎菌の分離同定を行い同時に CMZ の MIC 値を CEZ と比較した。また 4 例に CMZ の血中濃度を測定し投与法の検討を行った。

結果：分離同定された起炎菌と CMZ と CEZ に対する MIC 値を示した (図 1)。9 例中 1 例は *Haemophilus influenzae* であつた。残りの 8 例はグラム陽性球菌であつた。MIC は CEZ より CMZ は 1 管高い値であつた。しかし、*Staphylococcus aureus* で CEZ より CMZ が低値であるものが 2 例あ

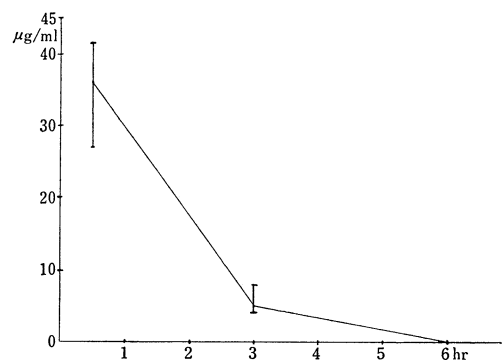


図 1 CMZ 2g 点滴静注の血中濃度

\* 金沢医科大学耳鼻咽喉科学教室

表1 起炎菌に対するCMZのMIC値(CEZと比較)

起炎菌	CMZ		CEZ	
	10 <sup>8</sup>	10 <sup>6</sup>	10 <sup>8</sup>	10 <sup>6</sup>
1. Staphylococcus aureus	0.78	0.39	0.2	0.2
2. " "	0.78	0.78	6.25	1.56
3. " "	0.78	0.78	1.56	0.39
4. " "	1.56	1.56	6.25	6.25
5. $\beta$ -Streptococcus Group A	0.2	0.2	<0.1	<0.1
6. " Group G	12.5	6.25	6.25	6.25
7. " 群不明	0.39	0.2	0.1	0.1
8. Streptococcus pneumoniae	0.39	0.39	0.2	0.2
9. Haemophilus influenzae	6.25	3.13	50	25

つた。血中濃度はCMZ 2g, 1時間の点滴静注を行った場合は表1のようであり30分値平均36.1  $\mu\text{g/ml}$ , 3時間値平均5.7  $\mu\text{g/ml}$ , 6時間値0という結果であった。

#### 考 察

起炎菌の分離同定結果が得られていない感染症の初期にはG群 $\beta$ -streptococcusのようにMIC値12.5のようなものもあり, 2g 2時間点滴静注6時間おきの投与が必要と考えた。

#### 質 疑 応 答

岩沢(札幌通信) CMZを特にグラム陽性菌感染症に対する臨床効果を検討されているが, Cefamycin系の特徴であるグラム陰性菌との混合感染例での治療効果はいかがい,

市川(金沢医科大) 今回検討した症例の中にはG(+)とG(-)の混合感染は一例もありませんでした。またG(-)感染症に対する効果も含めて, 今後検討したいと考えます。

## 耳鼻咽喉科感染症におけるCMZの効果

酒 井 國 男\*

大阪大学ほか10施設にて耳鼻科領域に於ける, 急性感染症および慢性感染症の急性増悪に対するセフメタゾールの臨床的有効性と安全性を客観的に評価した。

用法, 用量はone shot 静注または点滴静注にて, 1回1gを1日2回朝夕に投与した。また1日量2gで効果不十分の場合は1日量4gまで増量した。

効果判定のための自他覚所見としては, 体温, 疼痛, 全身倦怠感, 嚥下障害, 発声, 腫脹, 分泌物の性状, 量, 膿苔を参考にした。自他覚所見の他に細菌学的効果や白血球数, CRP値, 血沈値などの臨床検査

成績についても検討を加えた。

効果判定基準としては, 著効, 有効, やや有効, 無効の4段階に分けた。

11施設より集められた症例は71例であつた。急性扁桃炎27例, 扁桃周囲膿瘍14例, 急性喉頭蓋炎9例, 扁桃周囲7例と, この4疾患で全体の80%を占めた。中でも急性扁桃炎, 扁桃周囲炎, 扁桃周囲膿瘍の扁桃疾患が全体の約70%占めた。

疼痛, 全身倦怠感などの自覚症状よりみた効果は, 全体の66%が3日以内に, 94%が6日以内に改善した。無効例は無かつた。

\* 関西労災病院耳鼻咽喉科